

## 甘い配色・クールな配色

配色の好みは性差よりも、個々の対象者の趣味によるところが大きいものです

一昔前までは、「女性らしい」「男性らしい」配色というのがありました。女性向けの製品やデザインでは暖色系の明度が高い色、ピンクや赤、オレンジといった色がよく使用され(図1)、男性向けの製品やデザインには寒色系の明度の低い色、紺や青みがかった焦げ茶などの配色がよく見かけられました(図2)。

しかし現在では、生活においても、使用する製品や好みのデザインにおいても、男女の性差は少なくなっています。むしろ性差によって配色を決めつけられることを嫌い、個々の趣味や生活、環境に合った配色が求められているのではないのでしょうか。

では、女性向けの製品やデザイン、男性向けの製品やデザインの配色は、どのように考えたらよいのでしょうか？

そのヒントになるのが、配色による「甘さ」の加減です。配色で「甘さ」を表現するには、彩度はやや低めで明度は高めの色を組み合わせます。暖色系の色を多用するとより「甘さ」が強調され(図3)、寒色系の色を多用すると少し控えめな「甘さ」を出すことができます(図4)。

「甘さ」の対極にあるのが、「クール」な配色です。暖色は使用せず、明度の低い寒色系の色を組み合わせることで、クールなイメージが強くなります。女性向け、あるいは男性向けの製品やデザインで配色を考える際は、「甘さ」と「クール」の配色を混合し、バランスを加減することがポイントになってくるのです。

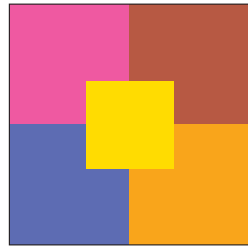


図1 女性向けの配色としてよく使用されていたのが、明度の高いピンクやオレンジ、黄色といった暖色系の色でした。今では現代の女性らしさからずれた古臭い印象になってしまいます。

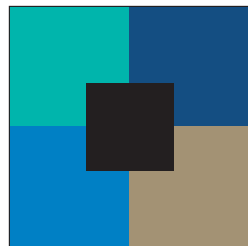


図2 いわゆる男性向けの配色として、一昔前まで考えられていたのがこれらの色です。しかし現代の、特に若い層の男性にはあまり受け入れられない配色になっています。

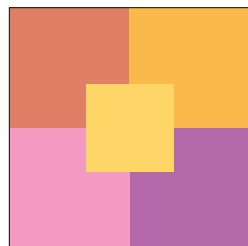


図3 「甘さ」は、明度の高い色彩で表現することができます。最も「甘さ」の強い配色が、これらの暖色系の色の組み合わせです。図1の女性らしい配色との違いは、彩度がやや低いことでしょう。

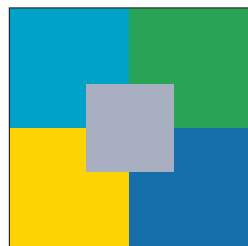
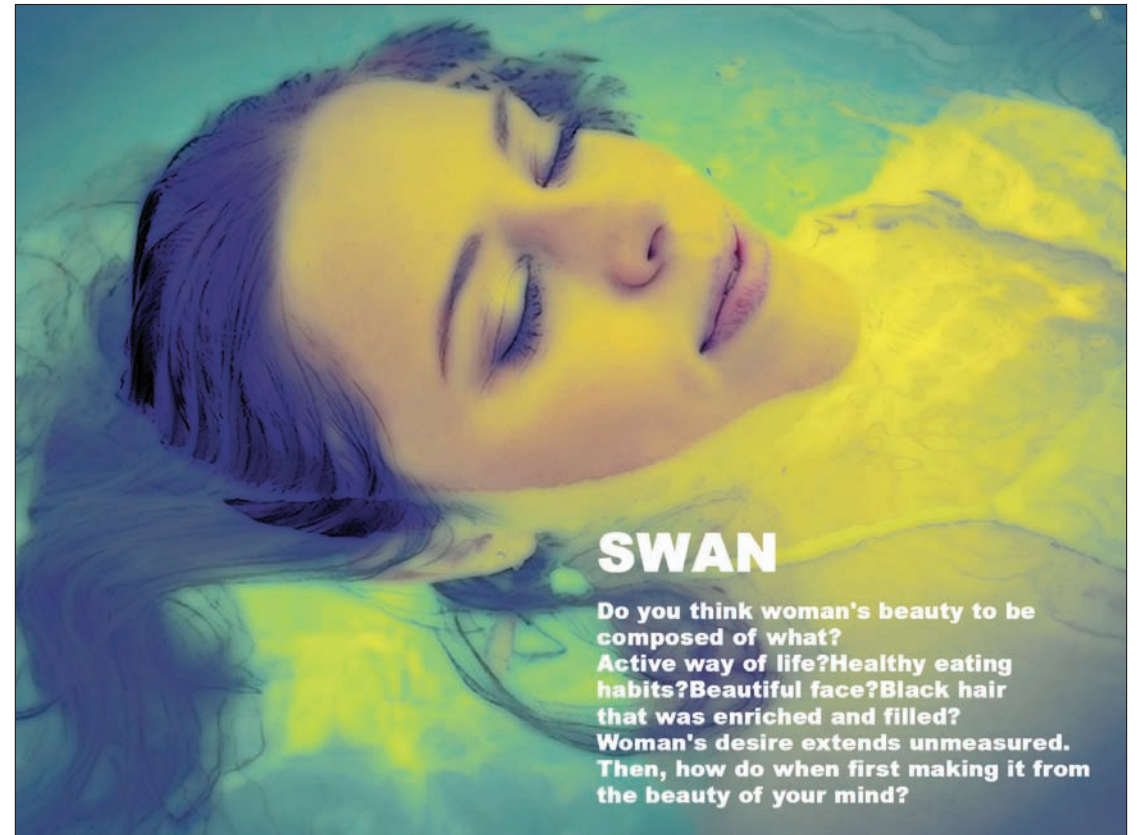


図4 寒色系の色を使用しても「甘さ」は表現できます。男性向けの製品やデザインでも、この配色のように控えめな「甘さ」を求められるものが増えていると考えられます。

寒色系の「甘い」色を組み合わせで作られた、女性向けファッション誌の広告例です。全体に色数と彩度を抑え、暖色系の色味を使用しないことで現代の女性らしさ、柔らかさが表現されています。女性向けのデザインでは、配色によるイメージよりも、グラフィック自体の柔らかさや洗練度によって作られるイメージの方が影響が大きいのかもしれません。



### Point

画像のコントラストを強くすると、女性らしい柔らかさが失われてしまいます。やさしさ、柔らかさといったものを表現したい場合は、コントラストを弱めにしておくのがよいでしょう。

